

現行の政策評価制度及び政策評価委員会からの意見

1 政策評価制度とは

【 概 要 】 政策評価は、政策・施策それぞれの分野において、その目的がどの程度達成されているかについて、「客観指標」と「市民生活実感調査」を基に把握し、評価するもの	⇒	【目的】 ○ より効果的な市政運営や政策の企画・立案等にいかすこと ○ 市民への説明責任を果たすこと
--	---	--

2 現行の政策評価制度

	分 類	客観指標評価 (306 指標)	市民生活実感評価 (118 設問)		総合評価
【政策】 市政の各分野における 基本的な方針	27 政策 (基本計画のとおり)	74 指標 (指標毎に a ～ e の 5 段階評価) 総合評価① ※政策：施策=1：0.5 (a ～ e の 5 段階評価) a：十分に達成されている b：かなり達成されている c：そこそこ達成されている d：あまり達成されていない e：達成されていない	118 設問 (設問毎に a ～ e の 5 段階評価) …総合評価② (a ～ e の 5 段階評価) a：大変良い状況にある b：やや良い状況にある c：どちらとも言えない d：やや悪い状況にある e：大変悪い状況にある	⇒ ①・②の 重み付け	総合評価 A～E の 5 段階評価 政策の目的が A：十分に達成されている B：かなり達成されている C：そこそこ達成されている D：あまり達成されていない E：達成されていない + 今後の方向性 コメント付記
【施策】 政策を推進するための 個々の具体的な方針	114 施策 (基本計画のとおり)	232 指標 ※政策に係る 74 指標と一部同じ (指標毎に a ～ e の 5 段階評価) 1	118 設問 ※政策に係る 118 設問と全て同じ (設問毎に a～e の 5 段階評価) 2	⇒ 1・2の 重み付け	総合評価 A～E の 5 段階評価 施策の目的が A：十分に達成されている B：かなり達成されている C：そこそこ達成されている D：あまり達成されていない E：達成されていない

3 政策評価委員会からの「政策評価制度に関する意見」の概要（令和 7 年 1 0 月 2 0 日）

分 類	客観指標	市民生活実感	全 体
○ 政策評価の対象は、これまでと同様に市政全般を網羅すべきであり、現行の京都市基本計画に掲げている政策分野等をベースとしながら検討されたい。 ○ 具体的な政策等については、分野別計画等の下位計画がその役割を担うことから、分野別計画等を参考としつつ、併せて、各局が自律的なマネジメントにより評価していけるよう、京都市の組織体系も踏まえる必要がある。	○ これまでと同様、分野別計画等も参考としながら、適切な客観指標や目標値を設定する必要がある。 ○ 指標については、中期的な視点に立ってトレンドを追うことが重要であり、一定期間ごとに多角的な分析・評価を行うことで、京都市の政策に活かすことを検討してはどうか。	○ 現行の市民生活実感調査にウェルビーイングの要素を取り入れ、充実を図られたい。	○ 政策評価制度の目的である「政策の企画立案、効果検証、課題の抽出及び改善等に活用する視点を重視するとともに、市民により一層分かりやすく、かつ伝わる政策評価制度」としていかなければならない。